

# 環境との関わり

## ■主な環境活動

### 1.IT企業としての環境推進活動

(P.30-31参照)

私たちはITによるサービスをお客さまにご提供することで、お客さまやその先の社会全体の環境負荷を軽減できると考えます。

### 2.エコオフィス活動

(P.29参照)

オフィス内の業務において、電気・紙使用量削減や、ごみ分別廃棄率の向上に努め、環境負荷の削減を行っています。

### 3.パソコン・パーツリサイクル

お客さまの使用済みパソコンや修理用部品を回収・再生し、利用しています。

### 4.グリーン調達

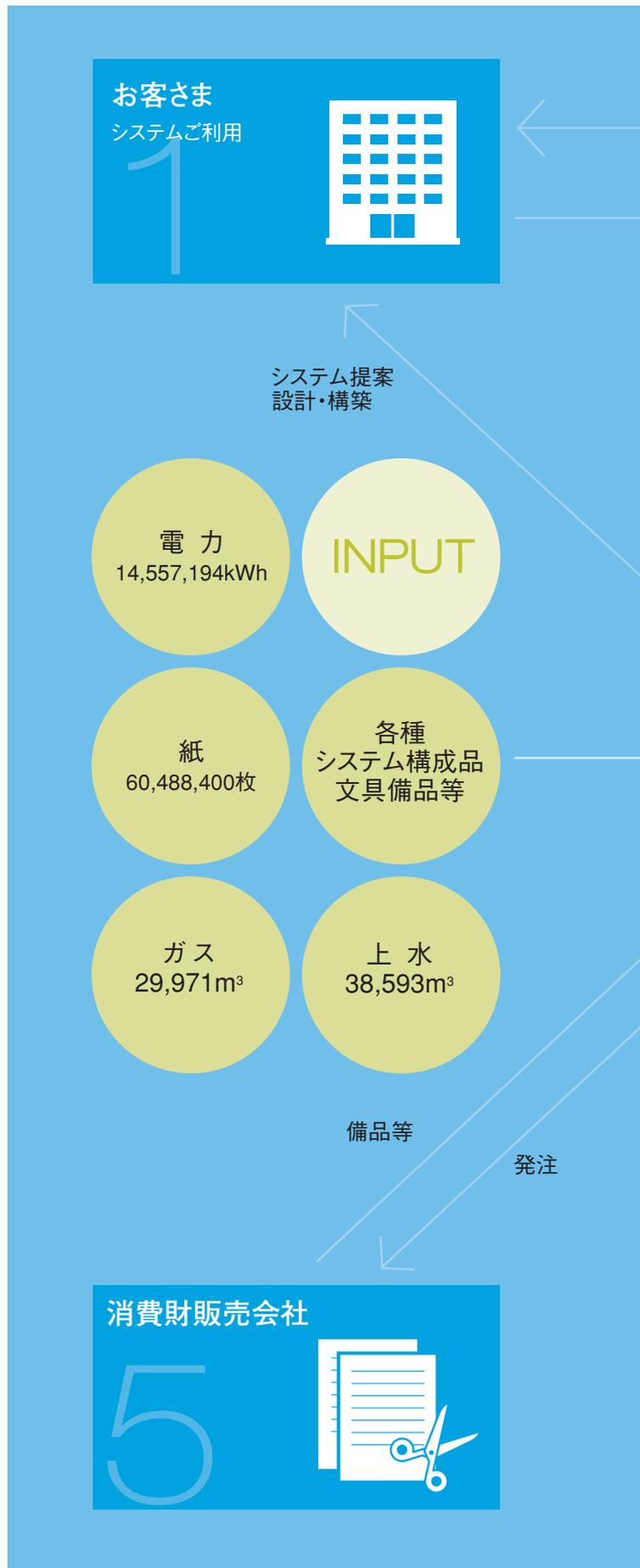
サプライヤーからの購入にあたっては、日本ユニシスグループ「グリーン調達ガイドライン」を策定し、環境に配慮したシステム構成品を購入しています。

### 5.グリーン購入

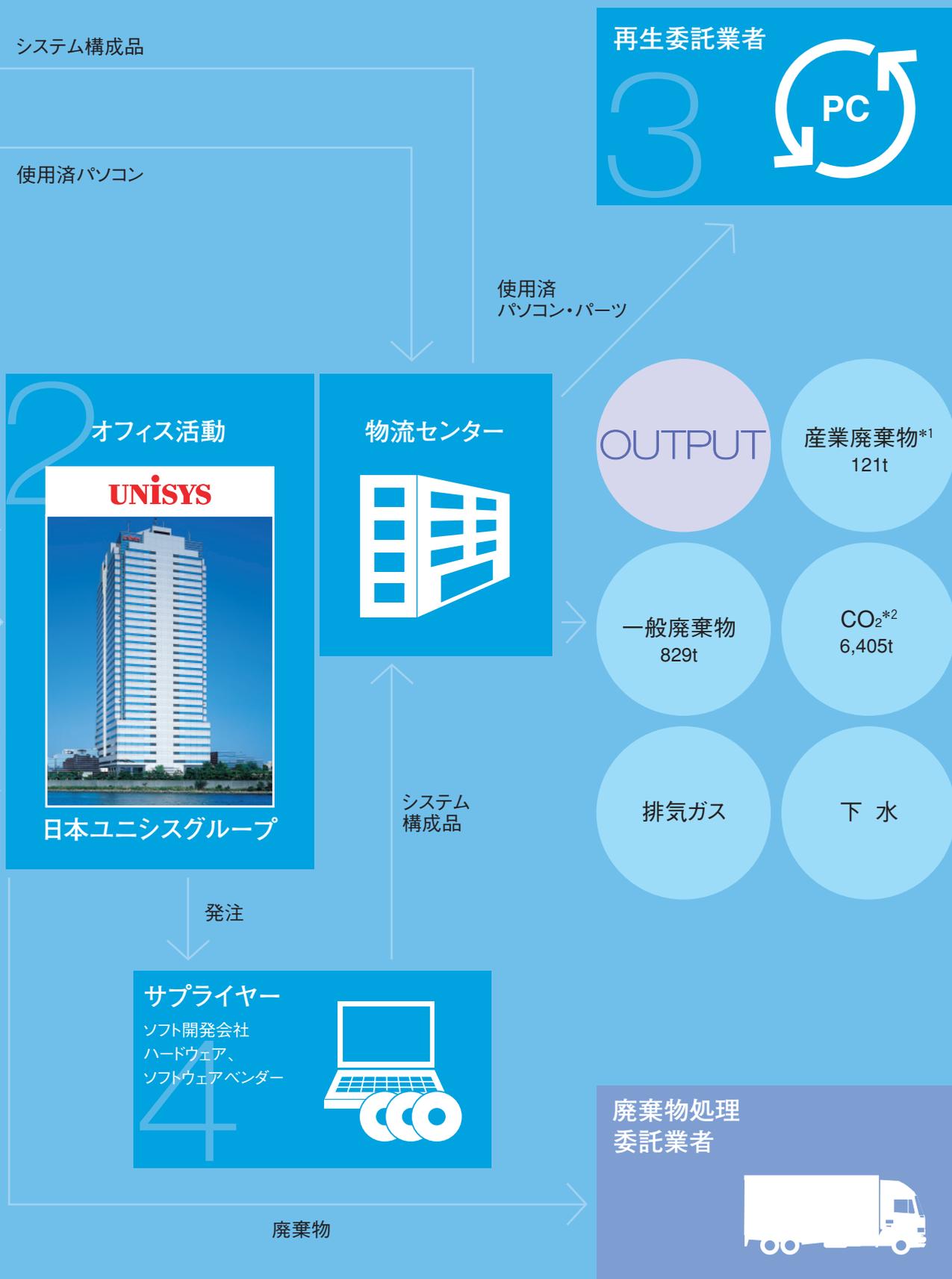
文具・備品等の購入にあたっては、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)に適合した製品を購入しています。

\*データは、2004年度実績

\*データ(電力消費量・廃棄物排出量)範囲は、豊洲ONビル(日本ユニシス本社、ユニアデックス本社、日本ユニシス・ソリューション本社、日本ユニシス・ラーニング本社、日本ユニシス情報システム本社、日本ユニシス・ビジネス本社、日本ユニシス・アカウンティング本社、トレードビジョン本社)



私たち日本ユニシスグループは、「ITが地球のためにできること」を環境推進活動における基本理念とし、IT企業としての事業活動を通じて、お客さまや社会全体の環境負荷削減、持続可能な社会の形成に努めています。また、当グループにおけるオフィス内部や流通フローにおいても「エコオフィス活動」「パソコン・パーツリサイクル」「グリーン調達」「グリーン購入」を進めています。



日本ユニシスグループと環境との関わり

\*1 家具・什器等 \*2 14,557,194kWh×0.44kgCO<sub>2</sub>/kWh 「電力事業における環境行動計画 電気事業連合会」

# 環境方針と推進体制

日本ユニシスグループの環境方針は2002年8月に制定され、その後2005年5月に改定されました。環境方針では特にお客さまの環境負荷削減に努めることを重要項目としてあげています。当グループの環境推進体制は、グループ全体の統括環境管理責任者の下、組織長またはグループ会社社長がそれぞれの部門/会社の環境管理責任者に就任し、各部門にEMS(環境マネジメントシステム)推進担当者およびエコリーダーを選任しています。また全体推進組織として日本ユニシスグループ環境推進委員会と事務局を設置しています。

## 【日本ユニシスグループ環境方針】

### 《基本理念》

日本ユニシスグループは「ITが地球のためにできること」を基本理念とし、お客さまの企業価値を高めるためITソリューションを提供するとともに、地球環境保全への取り組みを経営上の重要課題に捉え、「環境に配慮した事業活動」を着実に推進します。

### 《基本方針》

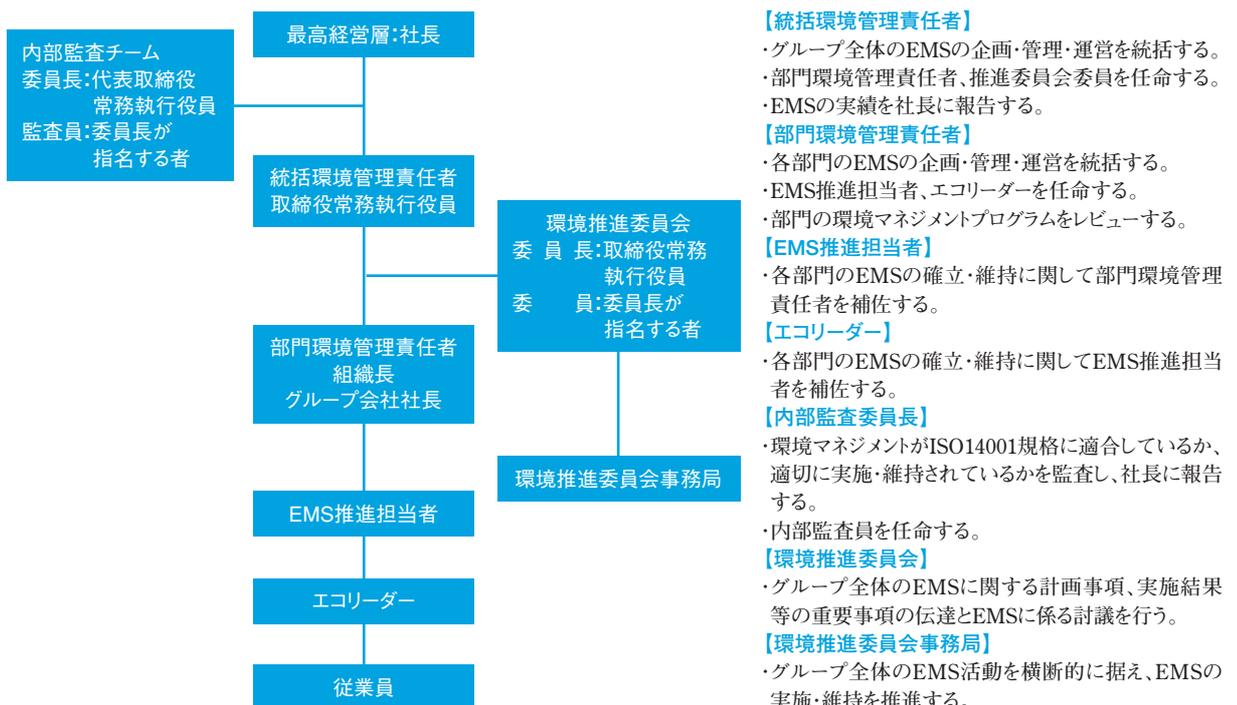
私たちは、お客さまのコンピュータ機器及びソフトウェアの販売・保守、情報システムサービスの提供により、社会経済活動の効率化、生産活動及びサービス分野における生産性の向上に寄与する事業者として、以下の方針のもとに環境保全活動を推進します。

1. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を図ります。
2. 活動にあたっては、環境側面に関連する法規制等、ならびに日本ユニシスグループが同意するその他の要求事項を順守します。
3. 次の項目を重要実施項目として取り組むことにより、地球環境保全/汚染の予防に努めます。
  - 1) 技術的、経済的に可能な範囲で、お客様の事業活動における生産性向上及び省エネルギーに貢献する商品・サービスの提供に努めます。
  - 2) オフィス活動において、電力使用量の低減、ペーパーレス化の促進、廃棄物の分別に取り組みます。
4. 「グリーン電力証書システム」に参加して、地球温暖化対策に貢献します。
5. 環境保全の重要性を認識させることを目的として、社員に対して啓発活動を積極的に行います。
6. この基本方針は組織で働く、又は組織のために働くすべての人に周知徹底し、一般に公開します。

平成17年5月1日(改定)

日本ユニシス株式会社 代表取締役社長

## 【環境推進体制と役割】



# ISO14001 認証取得状況

日本ユニシスグループは2003年4月、(株)日本環境認証機構よりISO14001の認証を取得しました。当初はグループ5社の東京地区の本社および事業所(11ヶ所)で取得し、その後2004年3月にはサーベイランス審査により、新たにグループ3社、地方の支社・支店・事業所(43ヶ所)を認証範囲に加えました。また内部環境監査も毎年一回、全部門を対象に実施しています。

## ISO14001 認証取得状況

2004年度のサーベイランス審査の結果、環境マネジメントシステムが有効に機能していることが確認され、登録が継続されることが決定しました。また併せて、登録範囲が拡大され、グループ内の3社、81拠点、161部門で環境マネ

ジメントシステムの国際規格であるISO14001認証を追加取得しました。

これによりグループ11社・112拠点・206部門でISO14001認証を取得しました。

### 【2004年度ISO14001認証取得状況】

- ・認証機関 株式会社 日本環境認証機構
- ・登録日 2003年4月9日
- ・登録番号 EC03J003
- ・登録範囲

#### 1. 日本ユニシス株式会社

本社、北海道アウトソーシングセンター、伊豆エグゼクテブ・センター、関西支社、中部支社、中部支社(プラザ・電気文化会館)、中部支社(豊田事務所・TSビル)、九州支社、鹿児島事務所、沖縄事務所、北海道支店、東北支店、秋田事務所、新潟支店、北陸支店、静岡支店、中国支店

#### 2. ユニアドックス株式会社

本社、平和島物流事務所、東京サービスセンター、首都圏第一営業所、首都圏第二営業所、品川事務所、川崎事務所、東京ベイ・サポートセンター、北海道営業所、東北営業所、新潟営業所、北陸営業所、静岡営業所、中国営業所、テクノロジーセンター、市川事務所、新橋事務所、大井事務所、平和島事務所、関西支店、中部支店、豊田事務所、豊田サービスセンター、九州支店、水戸SS(サービスステーション)、立川SS、甲府SS、長野SS、諏訪SS、千葉SS、石神井事務所、東京ダイヤビル、厚木SS、川越SS、太田SS、高崎SS、宇都宮SS、川崎サポートセンター、新札幌SS、函館SS、釧路SS、旭川SS、室蘭SS、苫小牧SS、秋田SS、盛岡SS、一関SS、青森SS、八戸SS、弘前SS、山形SS、酒田SS、福島SS、郡山SS、いわきSS、会津若松SS、長岡SS、富山SS、高岡SS、福井SS、浜松SS、藤枝SS、三島SS、岡山SS、松江SS、鳥取SS、山口SS、宇都SS、京都SS、神戸SS、福知山SS、栗東SS、奈良SS、和歌山SS、姫路SS、高松SS、松山SS、高知SS、徳島SS、豊橋SS、瀬戸SS、安城SS、岐阜SS、飛騨SS、津SS、四日市SS、沖繩SS、鹿児島SS、熊本SS、北九州SS、長崎SS、佐世保SS、宮崎SS、大分SS、佐賀SS

#### 3. 日本ユニシス・ソリューション株式会社

本社、関西支店、中部支店、中部支店・IMAI、中部支店・ちとせ、中部支店・TS、九州支店、北海道支店、東北支店、新潟オフィス、北陸オフィス、静岡オフィス、中国支店、中国支店・三コウ、愛宕事務所、虎ノ門事務所、SKY石神井事務所、センチュリー石神井事務所、新横浜事務所

#### 4. 日本ユニシス・エクセリュションズ株式会社

本社、北関東営業所、中部営業所、西日本営業所

#### 5. 日本ユニシス・ラーニング株式会社

本社、関西支店

#### 6. 日本ユニシス情報システム株式会社

本社、関西ビジネス部

#### 7. 株式会社エイタス

本社、シェアードサービス部、新川アウトソーシングセンター、関西事業所、関西アウトソーシングセンター

#### 8. 株式会社トレードビジョン

本社

#### 9. 日本ユニシス・ビジネス株式会社

本社、平和島流通センター、TDC、大阪支店、名古屋営業所、九州営業所

#### 10. 日本ユニシス・アカウンティング株式会社

本社、関西事務所、中部事務所、九州事務所

#### 11. 日本ユニシス・サプライ株式会社

((財)日本品質保証機構より2004年11月19日 認証取得)  
本社、大阪支店、栃木工場

## 内部環境監査

日本ユニシスグループならびに部門(サイト)の環境マネジメントシステムが、ISO14001基準および日本ユニシスグループ環境マネジメントマニュアル(第8版)に示された基準に従って構築・運用されているかどうかを、規格要求事項全項について客観的証拠(文書、記録等)を確認することにより監査を行いました。

監査結果は最高経営層に報告され、経営者による見直

しを的確に反映し、改善を図っています。

重大な不適合が1項目発見されましたが、これは書類の不備によるものでした。また軽微な不適合については18項目発見されました。これらの不適合項目に関しましては、是正処置の実施と是正報告書の提出を確認しています。その他、改善項目は多く見つけましたが、昨年度と比べて減少しました。改善項目の大半は、文書管理台帳の不備など、文書管理に関しての指摘であり、これは各部門のEMS推進担当者が、ISO14001の文書管理システムに習熟していないことが原因と思われ、今後とも文書管理システムをはじめ、規格に早く慣れることが必要不可欠であると認識しています。

### 【2004年度内部環境監査状況】

1. 監査実施期間 2004年11月15日～2005年1月14日
2. 監査対象範囲 日本ユニシスグループ  
10社 201部門
3. 監査チーム 内部監査員 33名
4. 監査結果 不適合 重大 1項目  
不適合 軽微 18項目  
改善 78項目

# 法規制の順守と環境教育

日本ユニシスグループは、事業活動において大気や土壌を汚染したり、河川に汚水を排出したり、騒音や振動を出すことはありません。しかしながら、事業所内の活動を通じて、電力などのエネルギーや紙などの資源を使用し、廃棄物を排出しており、そのために守るべき環境関連法規の順守に努めています。また、環境推進活動を進めていく上で、法規制をはじめとして知っておくべき事を、集合研修やeラーニングで教育しています。

## 法規制順守

私たちの事業活動に適用される環境関連法規に関する順守状況は下表の通りです。

また過去2年間、環境関連法規制の違反はありませんでした。

適用法規制等の名称	法規制等の要求事項	順守状況	評価年月日
省エネルギー法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）（本社ビル）	1.前年度の電気使用量が1,200万kWh以上であるとき、4月末日までに様式1（規4）を経産大臣に届出（法6.2） 2.目標は、年1%以上の低減（告39） 3.事由発生日から6ヶ月以内に下記の者からエネルギー管理員を選任／エネルギー管理員は3年毎（規9.3）に講習を受ける／次年度5月末日までに様式第5の4（規9.6）でエネルギー管理員の選任、死亡又は解任について経産大臣に届出（法10.2） 4.5月末日までに様式第3の2（規9.6）で判断の基準に定められた目標に関し、中長期計画を作成し、経産大臣に提出／中長期計画作成時に様式第3の3（規9.7）に従い、エネルギー管理士を参画させる（法10.4） 5.毎年5月末日までに、様式第5で、前年4月1日から3月31日までの電気使用量、電気の使用状況、電気使用設備及び電気使用合理化設備の設置、改廃の状況を経産大臣に報告（法11）	適切	2005.1.28
省エネルギー法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）（東京ベイ開発センター）	1.エネルギー管理員の選任と届出／エネルギー管理員の資格（法12.3） 2.エネルギー使用量、使用状況の記録（法12.4）	適切	2005.1.28
省エネルギー法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）	1.カタログ等へのエネルギー消費効率の表示（法20） 2.国内向け出荷実績の報告（法25.5、令13） 3.性能の向上の義務 2005年度の出荷実績で基準値を達成（法18、法19 告194、告195）	適切	2005.1.28
廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）	1.許可のある収集運搬業者、処分業者と書面による契約を結び、運搬・処分を委託（法12.3,12.4） 2.マニフェスト管理を行う（法12.3）	一部仕掛中	2005.1.28
ビルオーナーとの契約	ビル賃貸契約に基づき分別して排出	一部仕掛中	2005.1.28
廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）	1.特別管理産業廃棄物保管基準（規8.13）に従い保管（法12.2.2） 2.特別管理産業廃棄物管理責任者の設置（法12.2.6） 3.特別管理産業廃棄物管理責任者は厚労省の講習を受講する（規8.17）	適切	2005.1.28
家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）	廃棄物として排出する場合、運搬する者等に適切に引き渡し、料金の支払いに応じる（法6）	適切	2005.1.28
PCB廃棄物特別措置法（ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の促進に関する特別措置法）	1.廃PCBの保管・処分状況の知事届出（法8） 2.政令で定める期間（15年令2）内に処分又は委託（法10） 3.PCBの譲り渡し、譲り受け禁止（法11）	適切	2005.1.28

## 環境教育

私たちは、部門環境管理責任者／EMS推進担当者／エコリーダーのすべての階層において、2002年より毎年環境研修を実施しており、受講率はこの3年間、毎年100%を達成しています。

また、日本ユニシスグループのすべての役員・従業員ならびに協力会社の方々を対象に、毎年eラーニングによる環境研修を実施し、全員が受講しました（2002年度は受講者数は7,856名、2003年度は9,018名、2004年度は

10,282名）。2005年度もすべての環境推進活動担当者として、すべての役員・従業員に対して環境研修を実施する予定です。



# エコオフィス活動の目標と実績

日本ユニシスグループでは、オフィスにおける環境推進活動(エコオフィス活動)として、以下の活動を行っています。

2002年度から3年間連続で、1人当りの「電気使用量」および「コピー用紙使用量」は前年度を下回り、

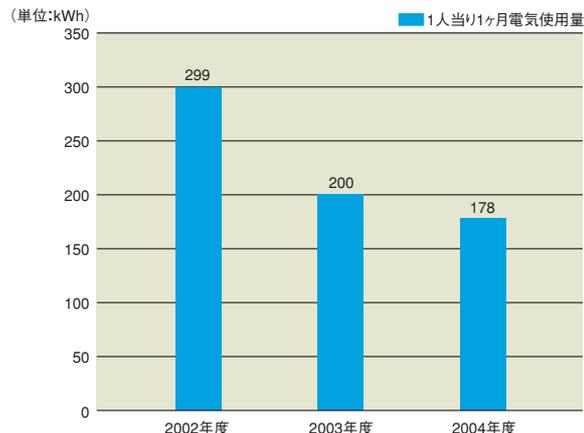
また「ごみ分別廃棄率」は前年度を上回ることができました。

対象社数は、2002年度5社、2003年度7社、2004年度10社です。

## ■電気使用量の削減

(単位:kWh)

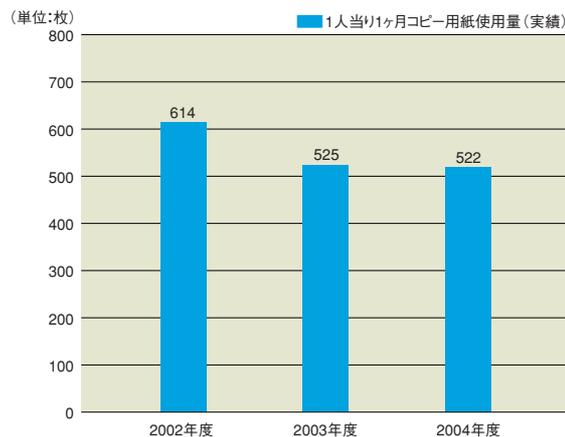
	2002年度 (対象社数5社)	2003年度 (7社)	2004年度 (10社)
電気総使用量(目標)	26,038,906	32,105,777	31,141,320
電気総使用量(実績)	24,745,506	30,174,644	30,583,102
目標・実績対比	-1,293,400	-1,931,133	-558,218
1人当り1ヶ月電気使用量	299	200	178



## ■コピー用紙使用量の削減

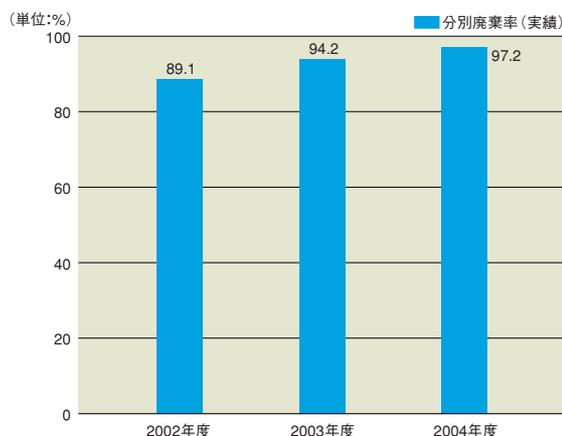
(単位:枚)

	2002年度 (対象社数5社)	2003年度 (7社)	2004年度 (10社)
コピー用紙総使用量	50,848,000	79,333,600	89,841,500
1人当り1ヶ月 コピー用紙使用量(目標)	649	645	500
1人当り1ヶ月 コピー用紙使用量(実績)	614	525	522
目標・実績対比	-35	-120	22



## ■ごみ分別廃棄率の向上

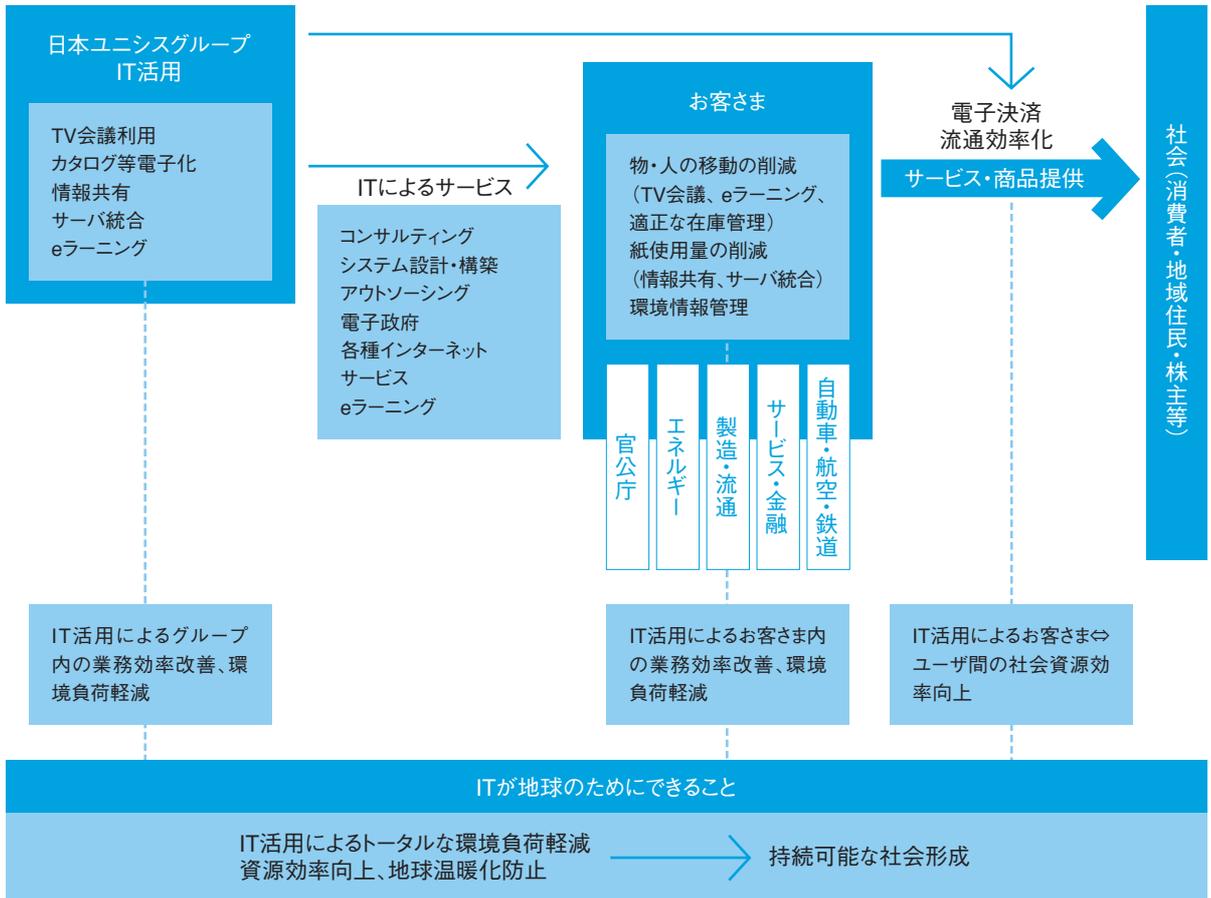
	2002年度 (対象社数5社)	2003年度 (7社)	2004年度 (10社)
分別廃棄率(目標)	70%	90%	90%
分別廃棄率(実績)	89.1%	94.2%	97.2%
目標・実績対比	19.1%	4.2%	7.2%



# IT企業としての環境推進活動

日本ユニシスグループでは、TV会議やカタログ等の電子化、サーバ統合やeラーニングなどのIT活用により、業務効率改善や環境負荷削減、資源の有効利用を図っています。また、私たちが提供するITによるサービスを通じて、お客さまの企業内での業務効率改善や環境負荷削減、資源の有効利用のみならず、社会全体の環境負荷削減、資源効率向上が促進され、地球温暖化の防止、持続可能な社会の形成が促進できると考えます。

## 【IT企業としての環境推進活動】



## 地球のために私たちができること

「ITが地球のためにできること」——これが環境推進活動を進めていく上での私たち日本ユニシスグループのメッセージです。当グループの主たる日常活動は、オフィスにおける事務業務であり、大気汚染や水質汚濁、土壌汚染や騒音・振動といった有害な環境影響が発生することはほぼあり得ません。しかしながら、環境問題、そして持続可能社会の形成が私たち人類一人ひとりの問題となっている今日、私たちはITを活用することで地球環境を積極的に守ることができると考えています。

日本ユニシスグループはITサービスを通じて、次の世代、その次の世代、さらにずっと先の世代まで、安心して快適に暮らしていける社会、そして地球を作っていくことに貢献していきたいと思っています。



日本ユニシス株式会社 CSR推進室環境担当 大城戸 隆

# 環境サービス事例

## 愛知万博での実証実験

### ICタグによる

#### 「設備・資材のリユース情報管理」

愛知万博のテーマは「自然の叡智」。環境を考えることが基本コンセプトです。

愛知万博日本館では、循環型社会におけるリユース（再利用）をテーマに、経済産業省の委託を受け日本ユニシスが、環境コンサルタント会社の(株)エックス都市研究所および大日本印刷(株)の両社と共同で、設備資材のリユース情報管理の実証実験を実施しています。

実験の内容は、空調機器やエレベーター、木材など建築設備・資材にICタグを貼り、個品管理を行うとともに、二次利用者向けに利用状況などの情報提供を行うことです。これによって、万博終了後、解体され中古品となる設備機器や資材をリユースするため、それらがどういった場所でどのように使用され、どんなメンテナンスを受けてきたのかなどの情報を開示し、購入希望者が中古品の物理的な価値を見極める上での参考としていただくという試みです。

日本ユニシスグループでは、持続可能な社会の実現に向けて先進技術を駆使したさまざまな実証実験を進めているほか、製造業、流通業などの各業務における資源の有効利用等を推進するために、ICタグ活用の提案、サポートを積極的に行っています。



1



2



3

- 1. 日本館（長久手会場）
- 2. 日本館エントランス
- 3. 設備・資材に貼付されたICタグ

#### ■実証実験内容(全体像)

